



栗原市立花山中学校閉校記念誌

2012.03



永遠に輝け
花中魂



学校教育目標

確かな学力，豊かな心，健やかな体の調和のとれた
ふるさとの学びを生かし，新しい時代を築く生徒の育成

自主

健康

奉仕

確かな学力と自主的態度の定着

1. 学習の個別化，指導の個性化の推進と分かる授業の展開
2. 学習習慣・生活モラルの定着
3. 言語力・表現力・判断力の育成
4. 探究心と創意工夫により，自己実現を目指す態度の育成
5. 花山自然の家宿泊研修等，体験活動の推進

自主



生命と心の教育の推進

1. 自他を愛し大切にする心の育成
2. 豊かな感性を培う教育活動の推進
3. 基本的生活習慣の定着と指導
4. 非常時に生きる安全指導の徹底と予知能力，咄嗟の判断力の育成
5. 環境の保全と点検・整備
6. 部活動，陸上・駅伝等の活動を通して培う基礎的体力の育成

健康



共助の心，勤労，福祉教育の推進

1. 他者を思い，互いに支え合い共に生きる心の育成
2. 勤労・生産的活動の推進
3. キャンペーン活動の推進
4. 交流学習の推進
5. 伝統と文化の継承に努め，ふるさとに誇りを持ち，ふるさとに貢献する態度の育成

奉仕



校章の由来



国の天然記念物に指定されている御獄山のしゃくなげを表し、寒さにめげぬ強さと淡紅色に咲く花の清純さや気品を象徴したものである。





校歌

花山中学校 校歌

作詞 白鳥省吾
作曲 森義八郎

The musical score is written in 4/4 time with a key signature of one flat (B-flat). It consists of a vocal line and a piano accompaniment. The lyrics are written below the vocal line.

1. やあき まおの ほぐの みけぞ どだら りかー はきは ずりれ すりわ よまたー くにり
2. 3. しみあ ぜやか んまる のにさき めかみ ぐおち ーは みるは ゆしひ たくら ーなげ ばけた るにり
まこの ますが りにく ほうわ のるき すはよ いしろう ちには ぶあか かいが おのに もつぽ ままう ろふん のむん ほわな
やら や まのま ちゆう かがが くくく ひちで かかか りらえ れれ れ

花山中学校 校歌

作詞 白鳥 省吾
作曲 森 義八郎

一、山は緑に 水清く
自然の恵み 豊かなる
見よ栗原の水源地
文化をおもう 真心の
花山中学 光あれ

二、仰ぐげだかき 栗駒に
深山にかおる 石楠花に
湖水に映る 星かげに
愛郷の土 今日もふむ
吾等の中学 力あれ

三、希望の空は晴わたり
明るき道は ひらけたり
伸びゆく若き 喜びに
輝く日本 打ち建てん
花山中学 栄あれ





校訓・校章・校歌

校訓・教育目標・校章の由来	
校歌	

あいさつ

花山中学校 閉校記念誌の発刊に寄せて	栗原市長	佐藤 勇	1
花山中学校の閉校に寄せて	栗原市教育委員会教育長	亀井 芳光	2
「閉校に寄せて」	栗原市立花山中学校長	半田 宏史	3
閉校に寄せて	栗原市立花山中学校PTA会長	高橋 誠一	4
中学校閉校によせて	栗原市立花山中学校同窓会長	狩野 博	4
思いでの一齣	栗原市立花山中学校第15代校長	渡邊 全恵	5
閉校に寄せて	栗原市立花山中学校第18代校長 現学校法人吉野学園 よしの幼稚園園長	金子 万治郎	6
過去から未来へ	花山中学校評議員・元花山村教育長	伊藤 順一	7

歴代校長

歴代校長	8
------	---

生徒会長あいさつ

花中への思い	栗原市立花山中学校生徒会長 3年 中 鉢 美 結	9
--------	--------------------------	---

学校沿革史

学校沿革史	10～11
-------	-------

学校の概要

特色・学区・位置図	12
学校平面図・校舎配置図	13

寄稿文

花山中学校閉校にあたり	元花山中学校PTA会長	佐藤 治	14
花山中学校閉校に寄せて	バドミントン県優勝監督	三浦 孝洋	15
閉校に寄せて	花山神楽保存会長	千葉 正彦	16
閉校に寄せて	崙山太鼓石楠花会長	兵藤 知則	17
花山中学校の閉校に寄せて	平成18年度卒業生	佐々木 敦志	18
「花山中学校の思い出」	平成7年度卒業生	金野 奈津子	18

写真でみる花山中学校の歴史

写真でみる花山中学校の歴史	19～23
---------------	-------

在校生寄せ書き

在校生寄せ書き	24
---------	----

「表紙題字 近江 裕之」





花山中学校 閉校記念誌の発刊に寄せて

栗原市長 佐藤 勇

風光明媚な自然をはじめ、温泉や史跡など豊かな未来を創るための素材が数多くあるこの地域において、子ども達に多くの学びを与えてきた花山中学校が閉校するにあたり一言ごあいさつ申し上げます。

花山中学校は、昭和22年4月の開校以来、65年にわたる長い歴史と伝統を築き、花山地区の発展と地域文化の進展に重要な役割を果たしてこられました。

この間、多くの優れた人材を世に送り出し、県内外におきまして、幅広い分野で御活躍されておりますことは、花山地区の皆様の長年にわたる温かい御支援の賜であり、厚く御礼を申し上げます。

また、歴代の校長先生をはじめ、教職員、関係者の皆様の並々ならぬ御尽力に対し、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、長い歴史の中で、保護者をはじめ地域の方々の学校教育に対する深い御理解と御協力によりまして、健全な子ども達の育成やPTA活動が活発に行われてきたのが花山中学校であります。

特に、確かな学力と自主的態度の定着や生命と心の教育の推進、共助の心、勤労・福祉教育の推進の三つを教育目標に掲げ、「確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和ある育成」を柱に、学校活性化プロポーザル事業を継続し、「ふるさとの学びを生かし、新しい時代を築く生徒の育成」を目指し、社会を生きる基礎・基本を伝え、培い、実践する学校づくりに取り組まれ、自主学習活動の体制づくりや朝読書、朝会の工夫、教育相談、セカンド・スクールによる異体験学習、地元講師に協力いただいた地域に開かれた学校づくりなど、誇りと自信に満ちた生徒の育成に力を注がれてきたところであります。また、確かな学力を身に付け、意欲的に学習する生徒の育成を推進してこられました。

このような活動が認められ、様々な分野において全国表彰や宮城県表彰などを受賞してきたほか、各種スポーツにおいても、県大会や全国大会で数々の優秀な成績を収めてきたところであり、教育環境の整備や地域と学校が一体となった教育が子ども達を健やかに、そしてたくましく育ててきたものと感じております。

これまで当校を巣立った皆様にとりまして、母校の閉校は何事にも代え難い寂しさであり、また、地域の皆様の愛惜の念も深いものと拝察いたします。しかし、ここで歴史が終わるのではなく、これからは次代へ花山の歴史と伝統が受け継がれていくよう願うものであります。

栗原市といたしましては、今後も、学府くりはらの実現に向けて、教師と子ども達がしっかりと向き合い、学校生活に満足感や達成感がこれまで以上に得られる、教育環境づくりを目指すとともに、花山中学校が育んだ歴史が長く受け継がれ、新しい地域の歴史が築かれていくことを心から御祈念申し上げ、閉校記念誌発刊のあいさついたします。



花山湖





花山中学校の閉校に寄せて

栗原市教育委員会
教育長 亀井 芳光

「山は緑に 水清く・・・」 「湖水に映る 星かげに・・・」

校歌の一節に歌われているように、自然に恵まれた風光明媚な湖畔に位置する花山中学校は、昭和22年4月、教育基本法の新しい教育制度のもとに創立されました。

その後、花山ダム建設のための現在の地に移転され、以来、多くの優れた人材を育て、地域と共に歩み続けてきました。部活動にも力を入れ、特にバトミントン部においては県大会で優勝するなど、その活躍は目を見張るものがあります。また、文化活動においてもその成果が顕著であり、多くの歴史や伝統を積み重ね、地域の教育振興・文化活動の拠点として歩み続けてきた学校であります。

私も昭和47年、3ヶ月弱の短い期間ではありましたが、講師として勤務させていただきました。当時、運転免許がなかったので花山湖畔のAさん宅に下宿をし、子どもたちと楽しく過ごした思い出や地域と学校が一体となって教育活動を行っていた姿が今でも鮮明に残っています。

このように地域と共に歩み続けてきた学校が、少子化や時代の変遷により平成24年4月、一迫中学校と再編され「栗原市立栗原西中学校」として新たなスタートをきることになりました。地域の皆さまにとっては計り知れない寂しさや愛惜の念を禁じえないことと思います。再編にあたり、ご理解とご協力をいただきました花山地区の皆さまに心より感謝申し上げます。

今、少子化時代を迎え、子どもたちの著しい減少による複式学級の増加や生徒数不足による部活動の運営が困難になっている現状であります。また、急激に変化する社会、国際化時代への対応等を考えたとき、将来を生き抜く心身ともにたくましい子どもたちの育成のためには学校再編は避けて通れない一つの道であります。

しかしながら、学校再編は単に学校だけの再編ではなく、地域の再編にも結びつくものであり、地域の皆さんの協力がなくては、再編のねらいを達成することができません。

花山・一迫地区を問わず、子どもたちも地域の方々も老若男女も一緒になり、多くの皆さんが親睦と交流を深め、新しい地区コミュニティの構築を進めながら、「再編してよかった」と語り継がれるような新しい学校を創り上げていただきたいと切に願っております。

子どもたちも地区の皆さんもこれまで受け継がれてきた花山中学校の輝かしい歴史や伝統を受け継ぎ、「地域と共に歩む新しい学校」の創造に向けて取り組んでいってくださることを信じてやみません。

結びに、これまで永きにわたり学校を支えてこられた地域の皆様に心より敬意と感謝申し上げまして閉校記念誌に寄せる言葉といたします。



白糸の滝





「閉校に寄せて」

栗原市立花山中学校
校長 半田 宏史

栗原市立花山中学校は、昭和22年旧花山小学校内に花山村立花山中学校として創立され、昭和27年に現在地に移転、昭和40年に現校舎落成、そして平成17年に栗原市立花山中学校と改称し開校以来65年の歴史を刻んで参りました。

この間、学校図書館表彰（昭37）、優良PTA団体表彰（平14）、東北管区交通安全優良学校賞（平22）などの学校表彰、NHK全国合唱コンクール出場（昭43）、県中総体野球準優勝（昭44）、全国中学校バドミントン大会女子団体出場（平7.10）などの生徒の活躍、そして、産業教育公開研究発表（昭35）、学校活性化プロポーザル事業（平16）、全国へき地教育宮城県大会公開研究会（平18）などの教育研究実践と、花山中学校の栄光の記録を挙げるには枚挙に暇がありません。これらは、各世代に渡る保護者の皆様、地域の皆様の花山中学校に対する大きな期待と心からのご理解、そしてご支援の証に他なりません。

しかしながら、昭和39年には400名を超えた生徒数も近年の少子化の影響を大きく受けて減少の一途を辿ってきました。生徒数が多い時代の活気あふれる往年の姿だけでなく、生徒数の少なさを跳ね飛ばす元気な生徒たちの姿、そして地域とともにあった行事などがはっきりと脳裏に焼き付いている中、現在学ぶ生徒たち、将来の生徒たちのより良い教育環境を確保するため、発展的に一迫中学校と再編するという決断をされた保護者の皆様、地域の皆様に、改めて敬意を表します。

さて、「花山中学校はどのような学校ですか？」と問われたら、私はすぐに二つを答えます。

一つ目は、「地域に根ざした学校」です。花山鉄砲祭りやふれあい運動会への学校を挙げての参加、地域の方々にご指導をいただいた華山太鼓や花山神楽そしてお琴の学習発表会やふれあい文化祭などでの披露、生徒会による交通安全キャンペーンや学校畑で収穫したジャガイモの販売等の毎年恒例の活動だけでなく、岩手・宮城内陸地震で被害を受けた国道398号線の「開通記念式典」や「敬老会」などにも積極的に参加してきました。このように生徒の姿を可能な限り地域の皆様に見ていただく学校でした。

そして二つ目は、「何事にも全員が心を一つに併せて積極的に取り組む学校」です。平成23年度、25名の生徒たちは、生徒会スローガンに「熱く輝け 花中魂」「永遠に輝け 花中魂」と掲げ、有終の美を飾ろうとこれまで以上に頑張ってきました。大きな学校に比べると生徒一人一人が果たす役割は遙かに多くなりますが、生徒たちは目の前にあるチャンスには、それが辛いと分かっているでも自分を磨くために果敢にチャレンジしてきました。全員で駅伝練習に取り組み、男子1チーム、女子2チームで大会に参加したことなどは、生徒たちが残した大きな成果一つです。そのような生徒一人一人の気持ち、姿そのものが「花中魂」だと教えられました。

平成24年4月に開校する栗原市立栗原西中学校の校歌には「これからの夢 これからの途 切通し」という一説があります。花山地域と一迫地域の生徒が共に力を併せて地域の新たな道を切り開いていくという思いが感じられます。さらには、地域の皆様と共に築き上げてきた花山中学校の魂が確実に受け継がれていくことが確信できます。

結びに、長年に渡り花山中学校の教育活動に際しご支援とご協力を賜りました保護者の皆様、そして地域の皆様に衷心より感謝申し上げますとともに、花山地域の一層のご繁栄と栗原西中学校の発展を祈念申し上げ、閉校の挨拶といたします。





閉校に寄せて

栗原市立花山中学校
PTA会長 高橋 誠一

花山中学校の閉校にあたり、PTAを代表しまして、一言挨拶いたします。

花山中学校は、昭和22年開校以来、地域の方々より愛されご支援頂いて参りましたが、65年の長い歴史に幕を閉じ、栗原西中学校として、一迫中学校と一つとなり新たに生まれ変わります。

さて、この度の閉校記念誌発刊にあたり、いざ筆を執りますと、花山に育ち花中最後のPTA会長として閉校を迎える事は、改めて寂しさが込み上げ、万感胸に迫るものがあります。これまで、当校を巣立ちました同窓生の皆様にとりまして思い出の母校が無くなるという事は、何事にも代え難い寂しさであり、断腸の思いであると存じます。当時の先生方や友人との思い出は、いつまでも心の宝であり昨日の出来事のように思い起こされる事でしょう。また、地域の皆様にも、愛惜の念が深いものが有ると拝察いたします。

これまで、花山中学校は少ない生徒数で有りながら、先生方と心一つにし何事にも自主的に取り組み、学力の向上に努めて参りました。文化面、スポーツ面においても、生徒一人一人が主役となり高い評価を得てきました。

これからは、花山一迫両地区の中で地域は広くなりますが、新たな仲間と出会い交流を深め視野を広げて、たくましく育っていく力を身につけていって欲しいと思っています。

また、花山中学校で学んだ石楠花の様な、粘り強く凜として最後まで取組む心を大切に新たな仲間と共に、元気で楽しい学校生活を送れる事を願っています。そして、これまで地域の方々には学校教育に理解を示し、熱心に学校行事や環境整備そして地域伝統などの講師として、ご支援頂きました。そんな地域の為に、生徒の皆さんは、ふるさと花山を愛し今後共盛り上げてもらいたいと思います。

最後に、本校の教育を推進し情熱を持って生徒の育成にご尽力頂きました歴代の校長先生をはじめ、諸先生方、地域の皆様方に深く感謝申し上げます。今後共、花山中学校を含め地域の子供達に温かいご支援を賜ります様、お願い申し上げます。閉校にあたっての挨拶と致します。

中学校閉校によせて

栗原市立花山中学校同窓会長
(第3回卒業生) 狩野 博

花山中学校閉校記念誌発行にあたり、同窓生の一人として一文を草します。

月日が経つのは早いもので、第3回卒業生として巣立ってから62年の歳月が流れました。戦後の六・三・三・四の学制改革により、昭和22年4月花山中学校が、今は湖底となった天ヶ沢地内の小学校の2階に開校され、私たちは新1年生に入学、国民学校高等科の生徒は2、3年生に編入され新しい中学校生活がスタートしましたが、前後して襲来した台風水害で校庭が流されたり、進駐軍が来て軍事教練用の道具などが燃やされたりと何とも落ち着かぬ世情の下での勉学、学習内容などは程んど記憶にありません。

校舎の移転も度重なり、花山ダム建設に伴い昭和27年には、座主久保地内に新校舎の落成を見ましたが、ダム満水時には浸水するため昭和40年に公民館を併設の3階建校舎に移転、現在に至っています。

また、昭和43年8月には学校支援する組織として、当時在職されていた今は亡き、菅原敬州先生の呼び掛けで中学校同窓会が結成されました。44年目を迎えた今年会員数は新卒者を含め、3,200名を越すまでになりました。自主・健康・奉仕の校訓のもと巣立った卒業生は周知のように各分野で活躍されておりますことはわが母校の誇りであります。暮らしを取りまく環境の変化につれ生徒数の減少などにより、教育環境整備・改善のため学校の統合が余儀なくされ、新たに発足する“栗原西中学校”に通学される1、2年生にあつては、誇りある「花中魂」を失うことなく、文武に励んでほしいと思います。

母校が無くなるということは誠に寂しいことですがこの地区から通学する生徒がある限り応援し、協力して行きたいと思えます。

創立65年にして、わが母校は閉校となりますが、この間に培われた“花中魂”は永遠に卒業生の胸の中に刻まれることでしょう。





思いでの一齣

栗原市立花山中学校
第15代校長 渡邊 全恵

背に秀峰栗駒山、前面に満々と水を湛えた花山湖。豊かな自然に包まれて建つ花山中学校が、平成23年度を最後に、開校以来65年の長い歴史に幕を閉じることは、時代(トキ)の流れとは言え、惜別の念を禁じ得ません。

私が奉職したのは、平成8年・9年度の2年間ではありましたが、数々の思い出を頂きました。生徒数は60名程の栗原郡内10校の中で一番小規模の学校でありましたが、明るく素朴で純真な生徒達が、僅か14・5名の先生達の指導のもと、明日を語り、夢を育んで元気に学んでいました。

春には、湖畔の桜を愛で、夏には校庭に無数のネジバナが咲き(玄関前の花壇に移植)、秋には木工室の脇でハタケシメジが採れる。冬には、生徒と先生が皆で雪掻き作業に取り組む姿がある。この環境も他校では味わえないものでありました。

特に中総体では、女子バドミントンが大規模校を凌ぐ活躍を見せ、郡内では5連覇、6連覇と圧倒的な強さを誇っておりました。

村の行事も、5月の鉄砲祭り、10月の湖秋祭等、村民総参加の伝統行事があり、活気に満ちておりました。

又、教育にも力を入れ、社会の進歩に遅れをとらないように、豊かな識見を身に付けた青少年を育てようと、「青少年交流事業」に取り組んでおりました。8年12月の冬休みには、花中2年生(男5、女5名)、青年団2名、村教委、私と担任等総勢17名で沖縄の嘉手納町を訪れ、嘉手納中学校と交流を深めたり、サトウキビの収穫体験、史跡の見学等、3泊4日の有意義な研修をさせて頂きました。翌年2月には、嘉手納中1年生14名が花山を訪れ、花中生に沖縄の伝統踊りを披露したり、ゲームを楽しんだり、花山村の青年達が演ずる無形民族文化財の花月人形劇を鑑賞したりスキーに挑戦したり、民泊をするなど北国の冬を堪能するなど誠に意義深いものがあり、本当にすばらしい事業と感服させられました。

僅か2年間ではありましたが、教育委員会のご指導の下、生徒一人一人を考え熱心に指導に当たる先生方と勤務できた花山中学校は小生38年間の教員生活の中での、忘れられない学校の一つとなっております。

最後に、花山村民、花山中を巣立っていった幾多の方々の方々の幸多かることをご祈念申し上げます。ありがとうございました。



校内マラソン大会





閉校に寄せて

栗原市立花山中学校 第18代校長
現学校法人吉野学園 よしの幼稚園
園長 金子 万治郎

1 当時の職員会議資料から

(1) はじめに

花 山 中 学 校		
HaNa YaMa JHS		
①	H---health	<健康> (健康)
②	N---nature	<自然> (健康)
③	Y---youth	<青春> (奉仕)
④	M---mankind	<人間> (自主)
⑤	4 a---actor (役者) : advance (前進) accountability (説明責任) ambition (野心)	

教育目標

- ◎ 自主
 - ☆ 旺盛な探究心と創意工夫により、自己の確立を図る。
- ◎ 健康
 - ☆ ねばり強く、最後までやり抜く。
- ◎ 奉仕
 - ☆ 自他の生命を尊び、思いやりの心を持つ。

(2) 学校経営の教育基本方針

「生徒あつての学校、生徒あつての教師」 生徒を中核に据え、生徒・教師共に学び合う学校を目指します。

2 思い出から

花山中学校には、平成15年度から17年度まで、3年間お世話になりました。栗原に、7年ぶりに戻ってきての学校が花山中学校でした。生徒・教職員・地域に恵まれた生活をさせていただきました。以下に花中生の活動の様子をまとめてみました。

(1) 平成15年度

- ① 三陸南地震（5月26日18時24分）震度5強 被害は壁の亀裂程度。
- ② 中体連地区大会でバドミントン女子団体11連覇、女子ダブルス、女子シングルス優勝
- ③ 栗原国語弁論大会 第2位で県大会出場 演題「ふれあいIMO（あいえむおー）」
県大会優秀賞
- ④ 仙台・鶴谷養護学校中学部との交流会。同校が開校以来継続。
- ⑤ ギター鑑賞教室「ラフォーレギターシンフォニアコンサート」を伊藤教育長さんのご高配によるボランティア演奏会 4名の演奏者による。
- ⑥ 「セカンドスクール」を1泊2日で「国立花山少年自然の家」を会場に、沖縄嘉手納中学校との社会科における交流授業など、交流を兼ねた。

(2) 平成16年度

- ① 県教委より「学校活性化プロポーザルモデル事業」推進校に指定。18年度まで3年間。
- ② 生徒参加の「花山鉄砲祭り」、女子は浴衣姿で「花山音頭」に、男子は太鼓や獅子舞に。
- ③ 中体連地区大会でバドミントン女子団体12連覇を果たす。
- ④ 「少年の主張栗原大会」で最優秀賞に。演題は「花の村の祭りから」。県大会 優秀賞
- ⑤ ふれあい農園で「じゃがいも570kg」の大豊作。自然薯の館で一般向けに販売。
- ⑥ 郡駅伝大会に参加。「みんなでつなげ心のたすき」で完走。
- ⑦ 「プロポーザルモデル事業」の一環としての「セカンドスクール」は志津川海洋青年の家を会場に「地引網体験」の学習を始め、地元の漁師さん達から指導を受けた。2回目の「セカンドスクール」は、花山少年自然の家を会場に、「キャップハンディ体験学習」を実施。

(3) 平成17年度

- ① 中体連地区大会でのバドミントン女子団体13連覇ならず。優勝は築館中。
- ② 市陸上・水泳大会には少ない選手ながらも出場し、力走・力泳し、入賞を果たす。
- ③ 泉が岳自然の家に宿泊しての「セカンドスクール」は河北新報印刷局の訪問を始め、宇宙館で星座の学習など仙台での研修を実施。
- ④ 学校給食試食会を実施。メニューは、ハヤシライス、チーズコロッケなど。18年度の学校給食の実施を目指し、「ランチルーム」の「改築」を年度末から取りかかる。
- ⑤ 新人体育大会では、バドミントン女子団体、個人とも優勝を果たす。
- ⑥ 宮城県警本部長・県交通安全協会会長より「交通安全優良校」として表彰を受ける。

以上です。





過去から未来へ

花山中学校評議員・元花山村教育長
伊藤 順一

明治22年の市制町村制施行後、大正・昭和にかけて花山村の人口の増加は著しく、昭和30年代初頭で約4,500人もあった。また、人口の割に面積が広い村で、分校が6校もあった。しかし、昭和30年代には、花山ダム建設にともなう村外移転や、時代の流れで都市への人口流出、その後の少子高齢化も拍車をかけ、平成2年には2,000人を切った。その後も児童生徒数の減少は続き、平成10年に花山小学校が複式学級校に該当することになり、また、花山中学校では平成13年に生徒数減少のため野球部が存続できず、野球部を廃止して男子バレーボール部に編入するまでになった。

私は、平成7年から平成17年の町村合併時まで村の教育行政に携わる時期があった。当時、小学校の複式学級を避けるため、山村留学を模索したり、花山少年自然の家の所長さんや、築館警察署の署長さんまで赴いて、人事異動の際、子供さんのいる家庭の転入をお願いしたものだ。しかしながら自然減をとめることはできなかった。教育委員会には少子化対策の他に、もう一つの課題があった。それは、小規模校が不利を被らないようにすることだった。小学校においては、中学校の音楽担当教師を小学校へ兼務発令をして派遣したり、修学旅行を姫松小学校と合同で行ったのもその一例である。中学校では、なんとといっても町村合併時まで9年間続いた沖縄県嘉手納中学校との交流事業であろう。今になって様々なことが思い出される。

平成の市町村大合併が進むとともに、学校の適正規模が唱えられるようになってきた。このことは、小規模校は再編の対象になるということであり、花山中学校は近くの学校に統合されるという意味である。花山から中学校がなくなる寂しさを感じつつも、大人数の中で学校生活を過ごしてきた我々の良き時代を思い出すと、必ずしも学校再編を否定することはできない。一迫中学校には部活動はもちろん、様々な選択肢が多いと聞いている。両校の良さを融合すれば、素晴らしい栗原西中学校になることであろう。

活発で心身共に大きく成長していく大事な時期に、大勢の中で勉強や部活に励み、己を切磋琢磨することはとても大事なことである。花山から栗原西中学校へ通う生徒諸君には心身共に健康で、大きな夢と希望を持ち、有意義な中学校生活を過ごしていただきたい。



新校舎への引越し
(昭和40年)





歴代校長

初代	山本 正校長	S22. 4～S23. 3
第2代	遠藤 主税校長	S23. 4～S26. 3
第3代	佐藤 策郎校長	S26. 4～S38. 3
第4代	佐藤 良一校長	S38. 4～S42. 3
第5代	千葉勇治郎校長	S42. 4～S45. 3
第6代	佐藤 貢校長	S45. 4～S47. 3
第7代	白石 幸雄校長	S47. 4～S49. 3
第8代	佐藤 英夫校長	S49. 4～S54. 3
第9代	菅原 宗夫校長	S54. 4～S59. 3
第10代	鈴木 功校長	S59. 4～S61. 3
第11代	菅原 章校長	S61. 4～H元. 3
第12代	鈴木 悌二校長	H元. 4～H3. 3
第13代	佐々木 竝校長	H3. 4～H6. 3
第14代	菅原 則雄校長	H6. 4～H8. 3
第15代	渡邊 全恵校長	H8. 4～H10. 3
第16代	千葉 郁朗校長	H10. 4～H12. 3
第17代	鈴木 信勇校長	H12. 4～H15. 3
第18代	金子万治郎校長	H15. 4～H18. 3
第19代	高橋 憲夫校長	H18. 4～H21. 3
第20代	半田 宏史校長	H21. 4～H24. 3





花中への思い

栗原市立花山中学校
生徒会長 3年 中鉢 美結

私は、今年で花山中学校が閉校してしまうというこの現実には、とてもショックを受けました。私が1年生の頃から3年間お世話になった場所、そして、今までの花中出身の先輩方にとってとても思い出深い場所です。沢山の事を学び、また、新しい出会いやいろんな事にチャレンジしたり等、花中でしかできない経験、花中だからできた経験もありました。

新しい年になるに連れて、花中の人数は少しずつ減ってきました。しかし、人数は少なくても何事にも真剣に、全校生徒が協力し支え合いながら取り組む姿勢はどこにも負けていません。人数が少ない分、一人一人が主役として輝いています。大きな負担を誰か一人でも抱えていたら、その分みんなで補い助け合います。小さい学校だからこそ出来る事があり、小さい学校だからこそ気づける友達や仲間の大切さ、そしてすばらしさがあると私は思います。

私はときどき先生から、「皆は恵まれている」と言われたことがありました。確かにその通りだと思います。こんなに生徒のことをちゃんと見て指導してくださる先生方は少ないと思います。今まではこの生活が当たり前だと思っていました。しかし、実際に花中のように恵まれた環境で生活している所は少ないです。

また、高校に行けば数百人という中で生活していかなければならないため、本当に花中のありがたさを実感しました。

私は正直、自分が最後の卒業生として花中を卒業できることに嬉しく思います。しかし、後輩からすれば複雑な気持ちだと思います。1、2年間花中で過ごしたのにも関わらず、母校を卒業できずに新しい学校へ移らなければならなくなります。急に環境が変わり、人数も一気に増え、慣れないこともあるはずですが、花中の生徒として今まで活躍し、乗り越えてきたのできっと頑張れます。そしてそれは私達3年生にも言えることです。花中で出来て他で出来ない事はありません。私達の母校が沢山の事を教えてくれました。たとえ花中が無くなってしまったとしても、私達の中から消えることはありません。本当はもっと花中を残して新しく入る子達に伝統を受け継いでほしいかったです。花中の名を沢山の人の心に広めたかったです。閉校は決まってしまうしましたが、花山以外の人にも花山中学校という学校があったということを忘れないでいてもらいたいです。

花中はこれからも永遠に輝き続けます。今までありがとうございました。





年度	首長	教育長	校長	PTA会長	月	日	事 項	在校 生数	卒業 生数						
昭和	千葉 盛		山本 正	千葉 林一	4	1	花山村立花山中学校 創立 (花山小学校内に)	181	25						
						4	18	花山村立花山中学校 開校							
						7	7	花山村立花山中学校父母教師会 発足							
						5	20	気象観測機器設置	232	34					
						23		遠藤 主税	高橋勇太郎	4	8	荒井田に学校田 果樹園設置	291	96	
											8	4	校庭流失(水害)	313	83
						24									
						25									
						26		佐藤 明	佐藤 策郎		10	7	修学旅行日光東京方面開始	305	92
						27					4	17	木造校舎落成式	305	110
						28		佐藤 策郎		後藤辰三郎	7	10	校旗樹立 (村議会議員寄贈)	297	92
						29					8	5	脱脂粉乳給食開始	299	97
						30				菅原 豊	10	3	学校図書館開始	290	96
						31					11	28	視聴覚教育用テレビ設置	282	102
						32		高橋 安美			9	8	屋内体育館落成	236	83
											3	15	校歌制定披露式		
						33					8	28	ダム完成に伴うダム大会開始	207	84
						34					1	25	木工室完成	192	63
						35					11	16	産業教育公開研究発表 (文部科学省)	243	65
						36					11	10	安全教育優良学校県準優勝	279	64
						37					2	16	学校図書館表彰	350	117
						38			佐藤 良一	佐藤 明	7	3	給食室完備 給食開始	384	95
						39					12	5	第2回産業教育公開研究発表	402	133
						40					9	8	新校舎竣工 移転	401	151
											11	15	屋内体育館移転 改修完了		
											2	9	技術棟移転 改修完了		
						41	佐藤 正男			佐藤 哲郎	6	17	庭園造成完了	350	105
											8	30	プール完成		
						42			千葉勇治郎		9	30	音楽クラブ 東北放送出演	347	129
											10	16	創立20周年記念式典挙行		
						43				佐藤 忠志	8	15	同窓会設立総会	327	116
											9	24	NHK全国学校放送コンクール出場		
											11	3	校門寄贈 (前村長 千葉盛 氏)		
						44		佐藤重太郎			4	1	特殊学級設置	289	101
											8	12	県中総体野球 準優勝		
											10	1	県中学校合唱コンクール 第2位		
						45			佐藤 貢	千種 祐一	4	1	生徒指導推進校指定 (県教委)	254	105
						46					4	9	プール浄化槽完成	229	81
						47			白石 幸雄	千葉 正清	4	4	校舎周辺植樹 (樺, 吉野桜, 八重桜, 他)	200	65
						48					10	9	VTR購入	180	78
49			佐藤 英夫	伊藤 賢治	11	7	優良PTA表彰 (県父母教師会連合会より)	146	55						
50					3	31	校庭前石庭改造	129	42						
51					10	6	マサキ, ドイツトウヒ 植樹	137	49						
52					8	2	側溝設置 (体育館, テニスコート)	121	37						
53					6	12	宮城県沖地震発生 プール陥没	112	50						
54		狩野 政雄	菅原 宗夫	千葉 胤勝	1	29	栗原郡中体連功績賞受賞 (女子庭球部 3年連続優勝)	121	34						
					2	14	屋内体育館落成								
55					7	23	県中総体陸上男子3000m第2位 東北大会第8位	74	28						
56					8	10	東北中学校陸上競技大会男子3000m8位	65	27						
57					7	8	仙台市立鶴谷養護学校第1回交歓会 開催	63	22						
					11	19	福祉教育研究発表								
					3	5	校庭フェンス新設工事完了								
58	佐藤 浩治				4	1	夜間・休日警備業者委託開始	59	17						
59			鈴木 功		4	1	勤労生産学習研究推進指定 (文部省)	63	24						
					10	9	屋上, 校舎外部塗装・改修工事完了								
60				狩野 勇	10	22	勤労生産学習公開研究発表会 (文部省指定)	56	18						
61			菅原 章		8	20	教室, 廊下内部塗装完了	57	19						
62				千葉 正彦	6	26	高知県本川中視察来校	54	19						
63					4	7	生徒用事務用椅子購入	58	18						
平成	元		鈴木 悌二	佐藤 千昭	1	1	へき地第1級指定	67	18						
	2				7	14	環境教育モデル指定校 (県保健環境部)	74	26						
	3	佐藤 千昭		佐々木 竝	11	19	県選抜軟式庭球大会 個人5位	70	23						
	4				10	29	栗原郡国語弁論大会 第2位入賞 県大会出場	69	25						
	5		伊藤 順一			4	1	生徒指導推進モデル地区指定 (県教委)	74	24					
					10	27	生徒用コンピュータ設置 (16台)								
					2	23	併設幼稚園 独立園舎へ移転								





年度	首長	教育長	校長	P T A会長	月 日	事 項	在校 生数	卒業 生数
平成	6	佐藤 千昭	伊藤 順一	菅原 則雄	佐藤 雄一	7 22 県中総体バドミントン女子団体 第3位 入賞	71	23
						12 22 屋内体育館屋根張替工事完了		
	7				佐藤 治	4 13 県バドミントン選手権大会 女子団体優勝	69	27
						7 22 県中総体バドミントン女子団体・個人 ダブルス優勝		
						8 21 全国中学校バドミントン大会女子団体出場 (東北大会優勝)		
	8					4 22 「花山中学校P T A」と改称	62	22
						5 13 県バドミントン選手権大会 女子団体優勝		
	9					12 2 全国年賀状コンクール佳作入賞	56	20
	10					7 24 県中総体バドミントン女子団体優勝 (東北大会出場)	54	19
						8 22 全国中学校バドミントン大会女子団体出場		
	11					4 1 心をはぐくむ教育活動推進指定 (県教委)	50	16
						4 1 福祉教育・ボランティア学習推進指定 (県福祉協議会)		
						4 17 創立50周年・校庭改修工事竣工記念講演会		
	12				鈴木 信勇	9 1 生徒用コンピュータ更新(24台設置)	51	19
	13					11 27 県バドミントン選手権大会 女子ダブルス 第5位入賞	53	15
						1 29 郡中体連功績賞受賞(バドミントン女子 団体3年連続優勝)		
	14					6 9 郡中体連バドミントン女子団体優勝(10連覇)	45	17
						9 19 「少年の主張県大会」優良賞		
						10 20 「県優秀P T A団体」表彰(県P T A連合会)		
	15				金子万治郎	9 13 東北P T A連合会表彰 佐藤 治 前会長	35	21
	16					4 1 学校活性化プロポーザル事業委嘱 (県教委3年間)	31	7
						6 5 郡中体連バドミントン女子団体優勝(11連覇)		
						7 23 第1回学校評議員会開催		
	17	佐藤 勇	佐藤 光平			4 1 「栗原市立花山中学校」と改称 (栗原市誕生に伴い)	35	8
						11 14 「交通安全優良学校」受賞(県警本部長・ 交通安全協会長)		
						11 28 第25回全国中学校人権作文コンクール 「学校賞」受賞		
18			高橋 憲夫	高橋 誠一	10 4 完全学校給食開始 (一迫給食センターより供給)	33	17	
					10 20 第55回全国へき地教育宮城県大会F分科会 公開研究会開催			
19					5 1 生徒・教員用コンピュータ更新	25	10	
					6 7 第1回花山中学校学校運営委員会開催			
					7 26 県中総体バレーボール男子・バドミントン 女子出場			
20					9 24 「少年の主張県大会」優秀賞	23	6	
					12 4 全国人権作文コンテスト法務省人権擁護局長 「感謝状」受賞			
					1 23 市中体連功績賞(バドミントン女子団体3年 連続優勝)			
21		亀井 芳光	半田 宏史	軽部 賢治	10 21 税の作文応募全国納税貯蓄組合連合会長 「感謝状」受賞	22	8	
					3 12 地デジテレビ(4台), チューナー(4台) 設置			
22					6 17 市陸上競技大会2種目優勝(男子走り高跳び ・女子砲丸投げ)	27	8	
					8 30 市駅伝大会男子1チーム・女子2チーム完走			
					11 5 交通安全東北管区警察局長賞・東北安全協会 賞受賞			
23				高橋 誠一	9 17 東北P T A連合会表彰 軽部賢治 前会長	25	6	
					9 29 高円宮杯全日本中学校英語弁論大会宮城県 大会優良賞			
					1 20 市中体連功績賞(バドミントン女子団体6年 連続優勝)			
					3 10 栗原市立花山中学校閉校式			





■ 特色

花山地区は県北西部に位置しており、北西部は奥羽山脈を境として秋田県湯沢市、栗駒山に、南西部は大崎市鳴子温泉に接している。地域は草木沢と本沢の二つの大きな沢で地勢が構成され、本沢の東端の花山ダム湖付近に地区の中心部があり、その辺りと草木沢東部に人口が集中している。地区の中心を国道398号線が通り、その沿線に温湯温泉、湯浜温泉があり、風情のある温泉として古くから親しまれてきた。

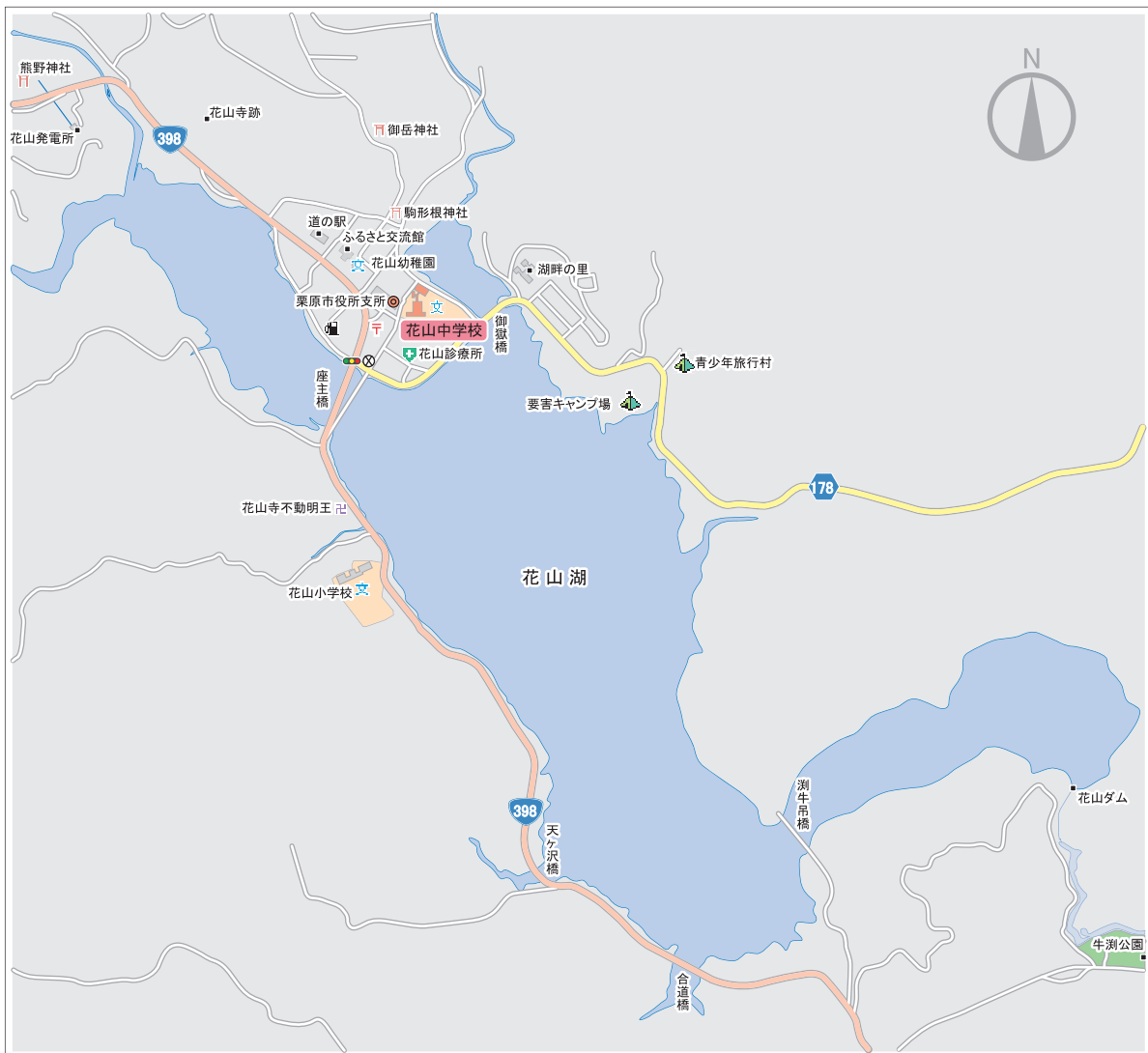
本地区は総面積の95%が山林で占められており、過疎と少子高齢化が進んでいる。ほとんどの家庭が三世代で構成されており、純朴な地域である。かつては、農林業や畜産業が中心であったが現在は近隣地域にある企業等への通勤が大半で、共働きの多い。

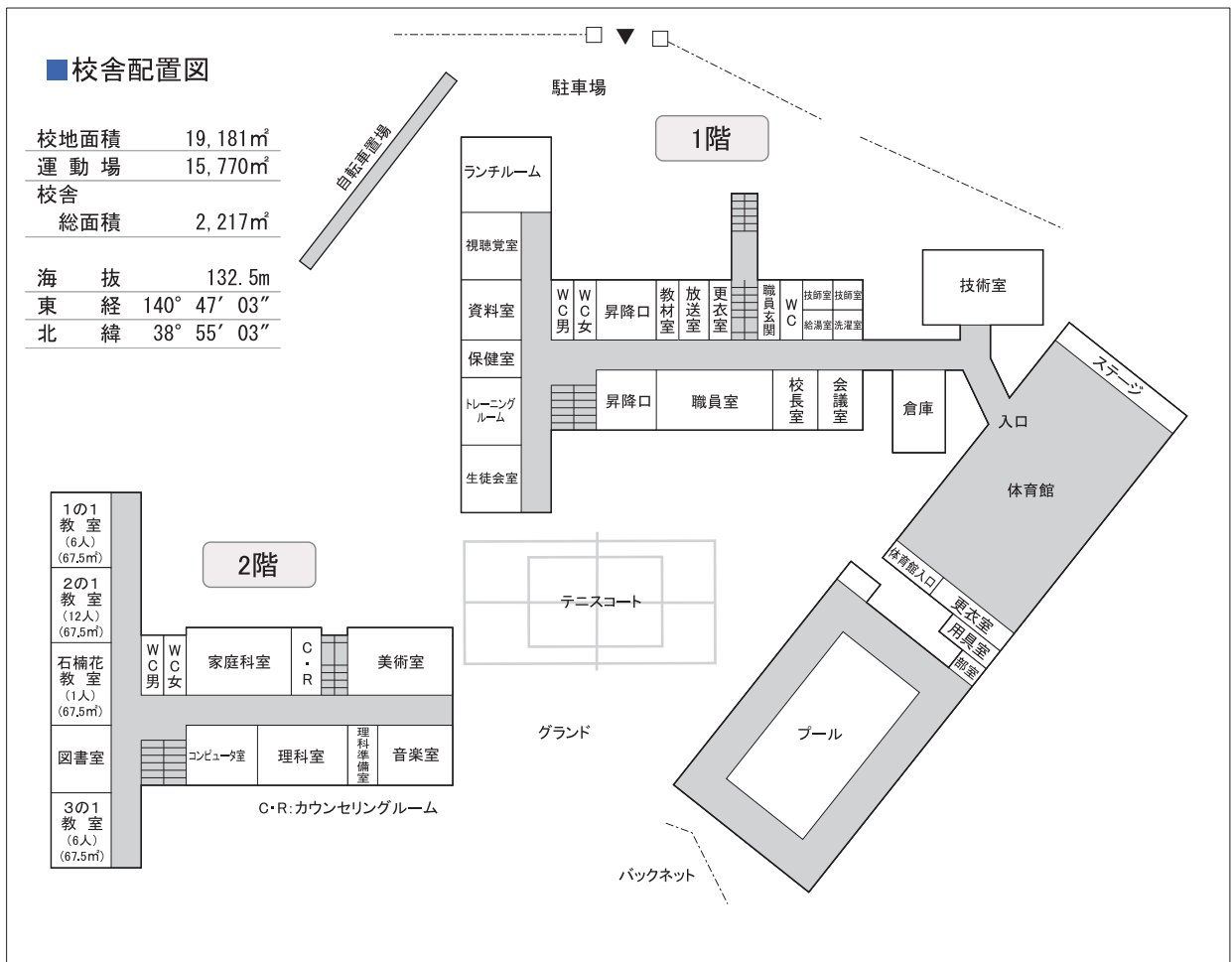
古くから教育について熱心な地域であり、学校教育に寄せる期待は大きい。総合的な学習の時間における講師等を積極的に引き受けるなど、学校教育に協力的である。また、地域行事の担い手などとして中学生に大きな期待が寄せられている。生徒は地域内に広く分散しており、自転車等での自力通学は半数以下で、他は自家用車による送迎や住民バス、スクールバスによる通学である。

なお、平成24年度の一迫中との学校再編には地区として賛成し、再編を前向きにとらえている。



■ 花山中学校位置図







花山中学校閉校にあたり

元花山中学校PTA会長
佐藤 治

平成7年のある日突然に当時のPTA会長が勤務先に来て、「頼む、だまっとうんと言ってくれ」から、私のPTA活動がスタートしました。何度も何度もお断りしたが、半分根負けもあり引受けた経緯がありました。

幼稚園、小学校とPTA関係についてはほとんど妻が行ってきたので、学校関係についてはまったくの理解不足で、教頭先生や、副会長に多大な迷惑を掛けたのだらうと反省しています。

会長として7年間という期間の中での様々な思い出も多く、先生方との情報交換会、小・中合同PTA研修旅行等があり、色々な所へ行き、小学校の先生や父兄の皆さん方との交流を深めたものです。

特に印象深いのは、沖縄県嘉手納中学校との交流でした。

初めて雪を見たという子供達もいて、2月の厳寒期での花山訪問で大騒ぎして行ったことが鮮烈で、また、引率してきた先生方と交流を深め花山にいて沖縄の文化や風の匂いを嗅いだ気分でした。

私が中学校の時、同級生は3クラスの101人だったと記憶していますが、その頃の中学校は生徒で一杯で、先生の数も多く賑やかでした。放課後は常にガヤガヤとして部活も多く在り自分の好きな事が出来たものです。

それが、現在では本当に生徒数が少なく、生徒達の声が聞こえていると何となく「ほっと」する時があります。「今日も生徒たちは元気ているな。」と感じます。

学校の統廃合については、ある程度理解できるものの年々生徒たちが減少している現状は、かわいそうとは思いますが、一人ひとりの顔が見える授業や学校生活は良い部分も多く有り、少人数学習での素晴らしさは、すでに実績として残っているのに残念です。

この生まれ育った花山の地から中学校が無くなり、子供たちの声が聞こえてこなくなる寂しさはきっとこれから益々増すものと思いますが、時代の流れとともに仕方の無い事にむなしさがこみ上げてきます。

生徒たちは、通学にこれまで以上の時間がかかりますが、多くの友人を作り、好きな部活動で活躍され花山中学校の伝統ある気質をぜひ引き継いでいただきたいと思います。

さようなら、花山中学校



昭和34年卒業アルバムより





花山中学校閉校に寄せて

バドミントン県優勝
監督 三浦 孝洋

昭和63年4月、2校目の勤務校として地元花山中学校に赴任した。当時は、小規模校での免許外担当はごく普通のこと、私も理科の教師でありながら、英語、数学、保健体育、技術家庭を臨時免許状を申請して担当した。教え子の中には、未だに私のことを英語の教師と思っている人がいるようだ。やんちゃな生徒たちもいて、私も若気の至りで何と無茶な指導をしたものだと思う事があるが、当時は至って真剣で、体当たりで指導していたと思ひ返される。「ふれあい農園」の担当を任せ、じゃがいもや大根、ネギ、サツマイモの栽培と秋の収穫など、楽しく思い出されることのひとつである。

花中勤務4年目の頃、バドミントンのスポーツ少年団が全国で活躍していることが村中の話題になっていた。当時中学校にはバドミントン部はなく、活躍している子どもたちの受け皿として、バドミントン部をつくる事について、職員の間でも話題になっていた。しかし、小規模校に新しい部をつくることは他の部を廃部にする事につながる事から、議論はなかなか進まずにいた。

結局、地域や保護者からの要望を受ける形で当時の佐々木竝校長先生の判断の下、バドミントン部の創部が決定された。

その後は、初代バドミントン部顧問として、どのように練習させ、どのように試合で戦うかを考える毎日が続いた。宮城県の女子バドミントン部という、聖ウルスラ学園が全国レベルで戦っており、県大会も20年連続して団体優勝していた。そんな強豪に当時の花中の選手達は、全く尻込みすることなく、ウルスラの選手たちをあたかも上から見下ろすごとく負けるはずはないと自信に満ちた戦いを挑んでいた。

創部2年目で金野奈津子さん、千葉良子さんのダブルスが全国大会に出場した。3年目には、県大会団体優勝を果たし、ウルスラの連続優勝にストップをかけた。このことは、選手たちの頑張りと同僚の方々の協力・応援のおかげであると感謝するとともに、その後の私の教員生活に大きな自信を与えてくれる出来事であった。

花山中学校が閉校になることは、地元に住む者として残念至極であるが、これも時代の流れと諦めるしかない。願わくは、花山中学校の歴史と伝統が何かしらの形で残され、受け継がれていくことを切に祈るばかりである。

(昭和63年～平成7年勤務) 現宮城県田尻さくら高等学校





閉校に寄せて

花山神楽保存会長
千葉 正彦

私たちが花山中学校を卒業した昭和34年当時は全校生徒が200名以上の大家族でした。建物も現在の鉄筋コンクリートと違い木造2階造りでした。同級生86名と過ごした3年間の楽しい生活がいまでも一番の思い出として残っております。勉強もさることながら部活や休み時間、放課後の語らいなど、思い起こせば懐かしさが込み上げてきます。当時は同級生の8割位は卒業と同時に就職し、みんな離ればなれになりました。地元に残る人たちも家事手伝い、進学と次第に会う機会が少なくなりました。その後成人式で久しぶりに顔を合わせ旧交を温めました。それが縁で同級会が盛り上がり以降毎年開催しております。同級生も各地に点在しており持ち回りの会場も関東、仙台、花山、etc というように小旅行も兼ねて、当時の思い出に花を咲かせ夜を徹して語り合います。

花山中学校との関わりはその後PTAの会員、役員として長い間、子供共どもお世話になりました。縁がありまして「ふるさと学習」の時間に花山神楽を生徒に教え、郷土の伝統、文化に関心を持ってもらうという保存会にとってもありがたい機会を頂きました。生徒の皆さんも初めての体験ですから相当戸惑ったことでしょう。最初はどうなることだろうと心配でしたが、自分自身で目当てを決めてそれに向かって努力する姿には感心させられました。数を重ねるごとに上達する生徒たちを見て私たち講師陣も大変うれしく勇気づけられました。装束をつけて学習発表会の場に臨み、日ごろの練習の成果を堂々と披露しました。会場いっぱいの拍手をいただいた時は感無量でした。終わったときの満足感は一人心の目が輝いて頼もしさを感じました。この子供たちが将来花山神楽に興味を持って保存会の仲間になるよう楽しみにしております。

その花山中学校が時代の流れとはいえ、65年間の歴史に幕を引くと聞いて一抹の淋しさを禁じ得ません。思い出多い花山中学校に関わってきた大勢の皆さんが名残りを惜しんでおられます。花山中学校は閉校になっても皆さんの心には楽しい思い出として永遠に残るでしょう。

発展的解消という言葉があります。この機会に同窓生はじめ、歴代の先生方、地域の皆さん方の一層の飛躍を祈念いたします。

山は緑に水清く、自然の恵み豊かなり、花山中学校よ永遠に





閉校に寄せて

華山太鼓石楠花会
会長 兵藤 知則

「閉校」時代の流れでどうしようもないと思う反面、花中時代のことを思い出し笑顔になったり、困った顔にもなったり複雑な心境で何ともいえない気持です。

思い出せば、昭和45年度の卒業生の私としては、学校の勉強より、その他の分野で青春をエンジョイしていた3年間でした。

その経験が今の社会に自分的に適応しているのかと感じています。

卒業後、仙台の方で仕事をしていたところ、親父の定年を機に生まれ育った花山に生活拠点を移し、親父、お袋、私たち5人の7大家族で当時は笑い声、怒鳴り声の耐えない賑やかな家庭でした。息子3人も花中を卒業し、2人は親父になりそれぞれ子供たちに思い出話をしていると思います。

地元に戻った私に友人から「和太鼓をしないか」の誘いがあり、仙台にいたとき、私自身仲間内でバンドを組んだり、和太鼓も少し経験があり、幸いなことに、石楠花センターに太鼓があるとの話から、小学生の子供たちに教えることとなり「華山太鼓石楠花会」を発足しました。花山の子供たちの育成、伝統文化の継承、それが私にできることのひとつと思い現在に至っています。

花山中学校から、和太鼓の指導協力要請があり、私としては一人でも多く和太鼓の魅力、力強さ、そして仲間意識を子供たちに伝えられればと思い承諾しました。

毎年、初めて太鼓を叩く子供たちは太鼓の音の大きさ、そして私の厳しい声の大きさに戸惑いながらも、手に豆を作り、裂け、テーピングしながら、最終目標の音楽祭に向けて一生懸命の姿でした。私としても、「今年はどうかな」「去年は何とかなったからな」の不安をよそに、終わってみれば発表会当日には120%の出来映え。子供たちの努力の賜で、私としても安心する瞬間でした。

今でも、町で出会うと「おんちゃん」の一声「まだ太鼓やってんの」「おう頑張ってるぞ、おめだず彼氏できたか」の問いかけに笑顔での返答、そのつながりが強いては、地元全体の活性化になれば幸いだと思います。

花山中学校は無くなっても、花山中学校を卒業した私たちの思い出は残り続けると思います。

又、花山の子供たちも統合中学になっても、何らかの形で花山中学校を覚えていてくれれば私たち同窓生としてもうれしい限りです。

私としても太鼓指導という形で、数多くの子供たち、先生との触れ合いの場をいただき、自身若返った気持にもなり楽しい時間を共有できたこと、大変ありがとうございました。

そして、最後になりますが、太鼓に携わった教職員の皆様には無理なお願いばかりでご苦勞されたと思いますが、この場をお借り致しましてお礼申し上げます。

本当に感謝しております。

花山の子供たちどこに行っても負けるな「花山魂 団結の心で頑張れ」



第7回栗原市小中学校音楽祭





花山中学校の閉校に寄せて

平成18年度卒業生 佐々木 敦志

花山中学校の閉校にあたって、登下校時の中学生の姿や生徒たちの声で賑わっている中学校、校門前にある活動報告掲示板などがなくなってしまうのは寂しいですが、栗原西中学校として新しい歴史が開かれることをうれしく思います。

私が入学したのは、平成16年で生徒数が約30人くらいでした。少ない人数なので上級生や下級生という堅苦しい関係はなく、花中生としての絆が深まったのだと思います。その絆が感じられたのは、駅伝大会でした。全員参加の練習では走るのが得意でない人もいました。しかし皆で声を掛け合って、厳しい練習も乗り越えられたのだと思います。大会当日は、全校での応援を背に受けて自己ベストを出すことができました。1本のたすきに全校生徒の思いと絆を感じることができた駅伝大会でした。

花山中学校では、地域の人たちとの交流も多くありました。総合学習での嶺山太鼓、神楽、郷土民芸などがあり、花山の伝承芸能に触れる貴重な体験で、この体験を通して、花山をもっと好きになることができました。この他に、鉄砲祭りへの参加やふれあい農園での芋作りなど地域の人たちと一緒に活動してきました。特に、芋作りでは、IMO活動と称して、作った芋を販売し、収益を福祉に役立てる活動をしていました。この活動で誰かのために私たちが行動し、人のために役立つことのすばらしさに気づくことができました。

今の私があるのも、花山で育ち、地域の方々に暖かく声を掛けていただき、この花山中学校で学ぶことができたからです。花山中学校で学んだ友人や先輩、後輩、先生方には感謝の思いでいっぱいです。

栗原西中学校開校に伴い、花山中学校の在校生の皆さんは期待と不安でいっぱいだと思いますが、部活動や勉強で競う仲間がたくさんになり、よい刺激が多くあり自分をより高めることができる機会となることでしょう。

最後に花山地区の中学生の皆さんには、花山中学校のよき伝統を引き継ぎながら、栗原西中学校を引っ張っていく人になってもらいたいと思います。そして、花山地区が今まで以上に盛り上がってくれることを願っています。

「花山中学校の思い出」

平成7年度卒業生 金野 奈津子

先日、33歳の年祝いの同級会があり成人式以来、12年振りに中学校時代の恩師や友人達に会うことが出来ました。この原稿のお話をいただいて何を書こうか悩んでいる時でしたが、友人達と話していると当時のことが色々と思い出されてきました。たくさんの思い出の中で私が一番心に残っているのは部活動のことです。

私が小学校4年生のスポ少でバドミントンを始めた時、花山中学校にバドミントン部はありませんでした。ずっとバドミントンを続けたいけど、中学校に入ったら出来ないんだなあと思ったことを覚えています。しかし、私達が入学する年にバドミントン部が創部されました。当時の私達1年生は、バドミントンを続けたくても出来なかったスポ少の先輩達の姿も見てきたし、部が出来るまでにたくさんの人が協力してくれたことも知っていたので、中学校でバドミントンが出来るのがとても幸せでした。

そして、創部されてから目標にしていた「県大会優勝」を3年生の時に達成し、全国大会にも出場できました。中学校時代の部活動は、本当に周りの人達に支えられながら続けられたと思っています。

また、担任の先生と部活の顧問の先生には親元を離れ、青森の高校でバドミントンを続けるか悩んでいる時に、親身に相談にのっていただきました。バドミントンをする環境が整った青森の高校では、厳しい練習を一緒に耐えた大切な仲間に出逢えました。中学校にバドミントン部がなくバドミントンを辞めていけば、出逢うことのなかった仲間です。

私は今、スポ少で小学生と中学生を指導する立場になりましたが、子ども達はバドミントンが大好きで、一生懸命練習に取り組んでいます。中学校が閉校し、「花中バドミントン部」がなくなるのは寂しいけど、子ども達が新しい栗原西中学校で、たくさんの仲間に出逢い、活躍してくれることを期待しています。



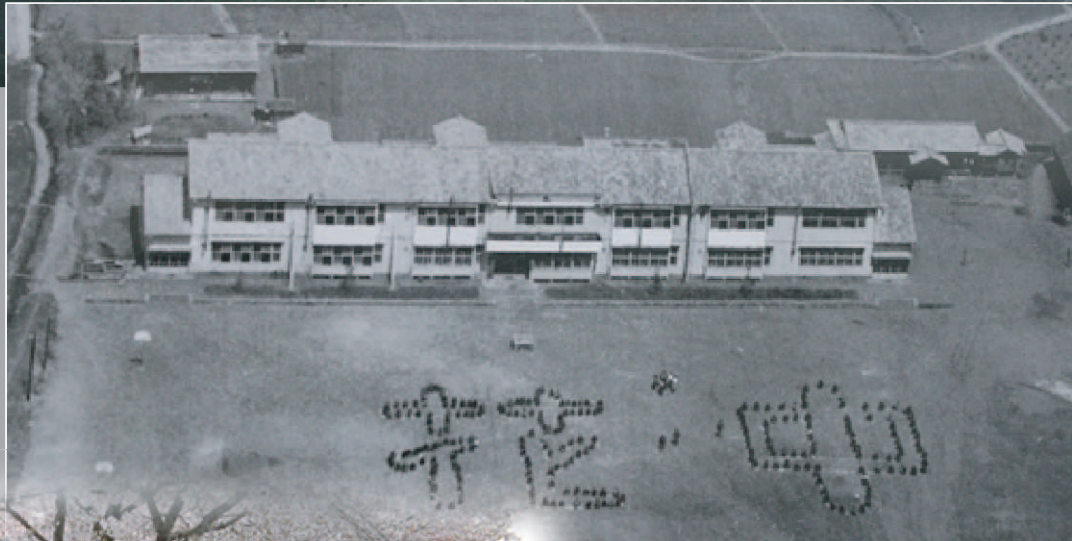


校舎・校舎周辺

▽ 昭和34年



旧校舎



△ 昭和44年

現校舎





学校行事



◀ 昭和40年
花山・村民小中大運動会 ▼ 昭和42年



▽ 野外炊飯



△ 駅伝大会（昭和58年）



△ 校内マラソン大会（昭和61年）



◀ 郡中学陸上大会（平成2年）



◀ 中体連（平成2年）

▽ 勤労者体験学習（平成2年）



▽ 花中祭（平成2年）





▽ 鎌倉 昭和41年



▽ 昭和58年



学校行事・修学旅行

▽ 昭和60年



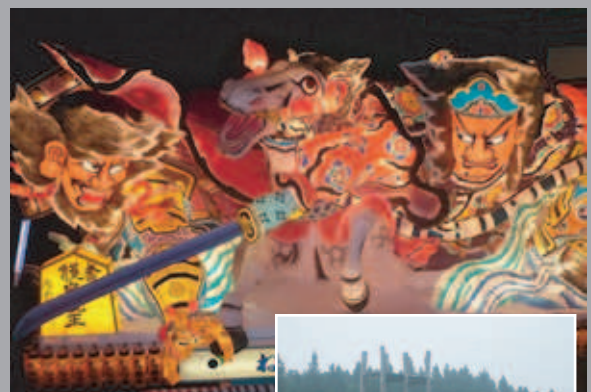
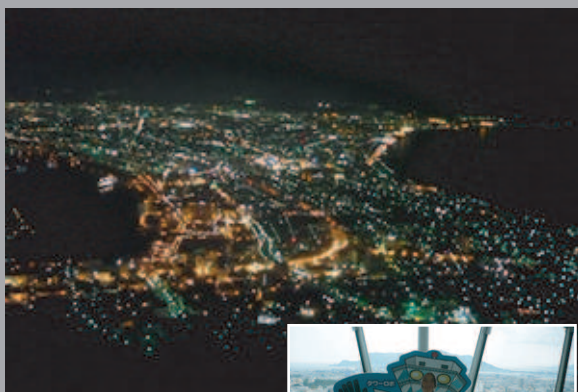
日光方面

◀ 昭和56年



東京・TDR

平成19年



函館・青森

平成23年



三内丸山





その他の行事



花山神楽



華山太鼓



花山鉄砲祭り





花山ダム湛水前昭和三十三年四月の視景座主山下前堤防の櫻を望む

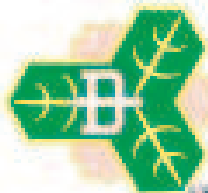


ふるさとの風景



新校舎への引越し





Good Love Friend
母
みゆこ

最高の思い出
ありがとう!

飛翔
吹雪
M.S

Our Sunshine.

Good bye 花中
★Kポップ★

2年間の思い出
命で思い出して
手紙

花中へ永遠に
の花

楽しい思い出
ありがとう
吹雪

一校一心
花中
中

forever!
えりも

ありがとう
花山中学校
直心

直心

Wonderful
memories
えりも

Thank you
for Hanayama
JHS!

とまちゃん

いまだ思い出
もど

もど



CK70

Good luck everyone
See you

★つらたん

Thank you Jampch!

かつ

一期一会
A.M.B
今までの思い出
花山中学校
たむら

I enjoyed school life
Goodbye!
Hanayama JHS
☆

ひなちゃん

輝き続ける
花中魂!

自由
Freedom

つらたん

おとこい、しよに

はなみ

一校一心

いままでも思い出
えりも





栗原市立花山中学校閉校記念誌

発 刊 平成24年3月

発 行 栗原市教育委員会

企画・編集 栗原市立花山中学校